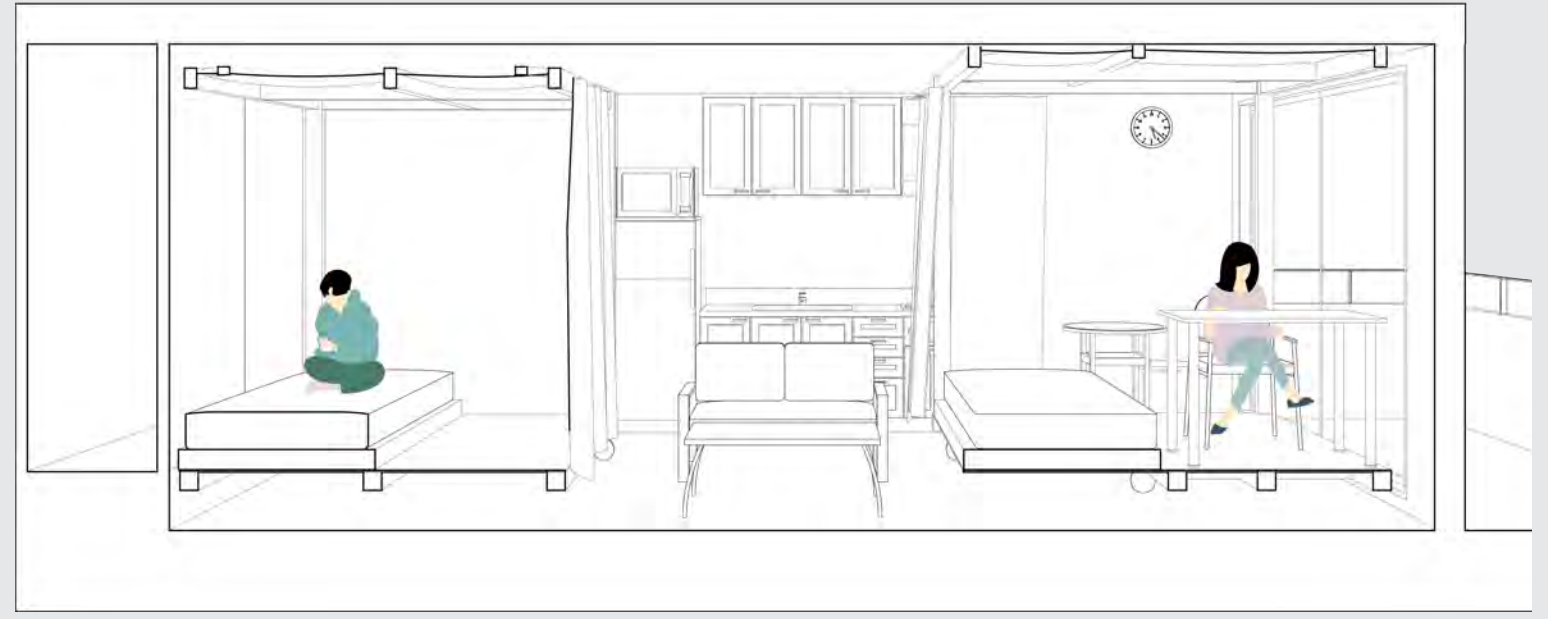


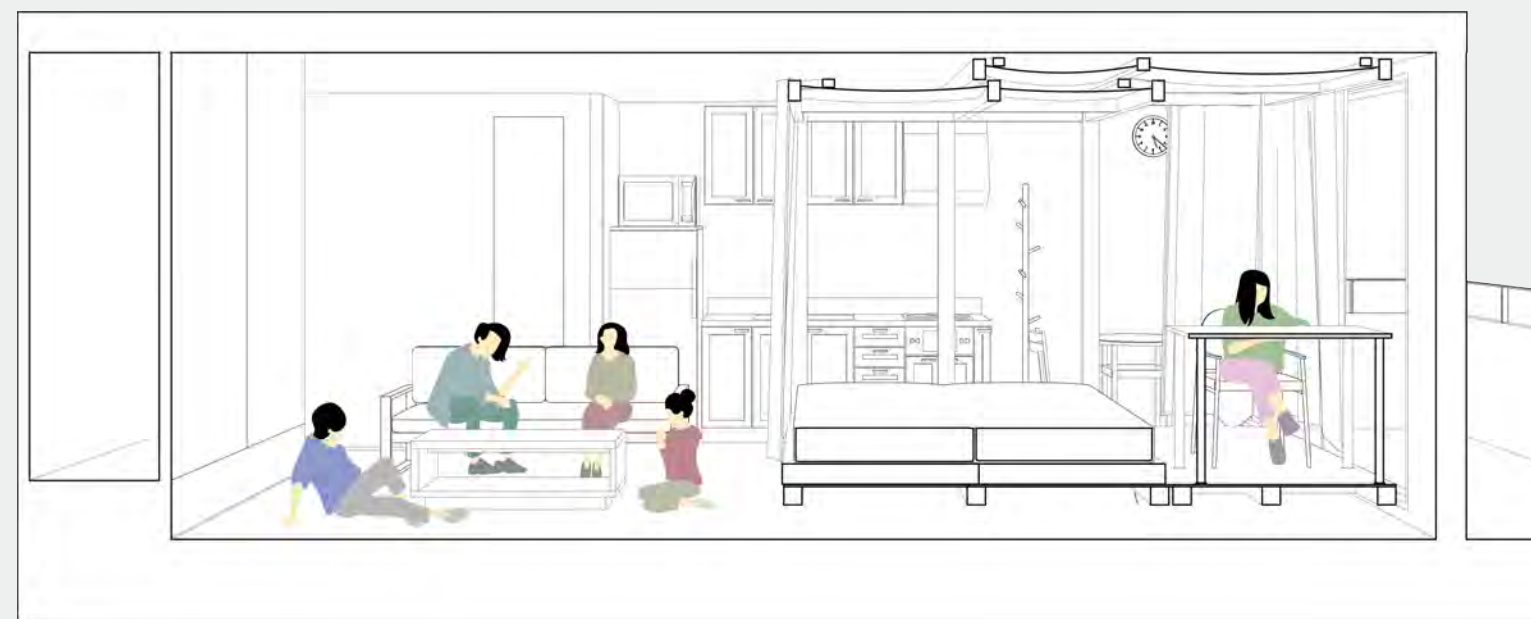


MODE：セパレート I

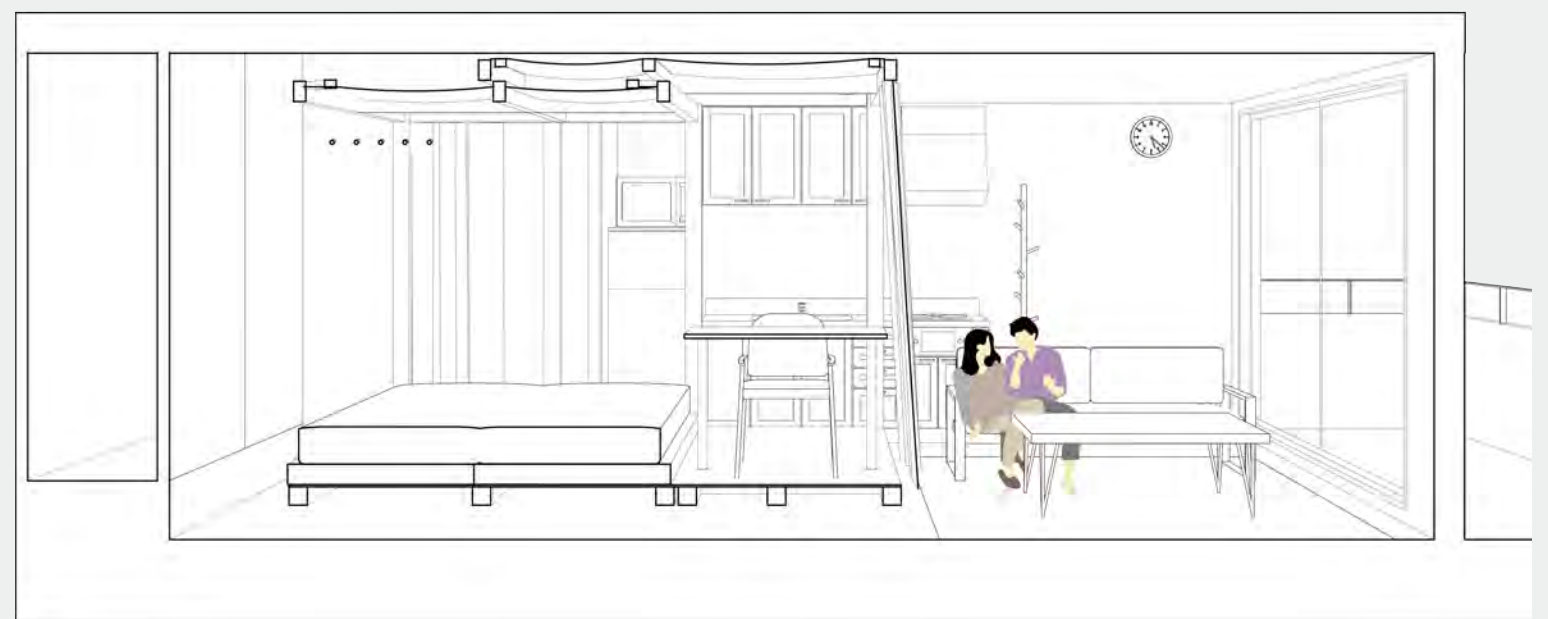


MODE：セパレート

1Room 4Modes



MODE：おもてなし



MODE：だんらん

Concept

扉で仕切る従来の0か100かの距離感ではなく、ふたりの間の関係性や心のグラデーションに合わせて、空間のあり方や使い方も変化させられるようなふたり部屋を提案する。

わたしの心

あなたの心

1K

100

2LDK

0

0

提案

住宅の型を良いとこどりする。

2LDK	×	1K
一人時間の確保 喧嘩などで距離をとる 友達を呼びやすい		常に一緒に過ごせる 掃除が比較的楽。 家賃が安い

それぞれの住宅の型を良いとこどりしつつ、1room だからこそ生まれる空間を目指す。そのために「揺り籠」と名付けた動く什器により、4つのモードチェンジを可能にした。

「揺り籠」の形

■揺り籠（大）高さ 2350mm ■揺り籠（小）高さ 2200mm

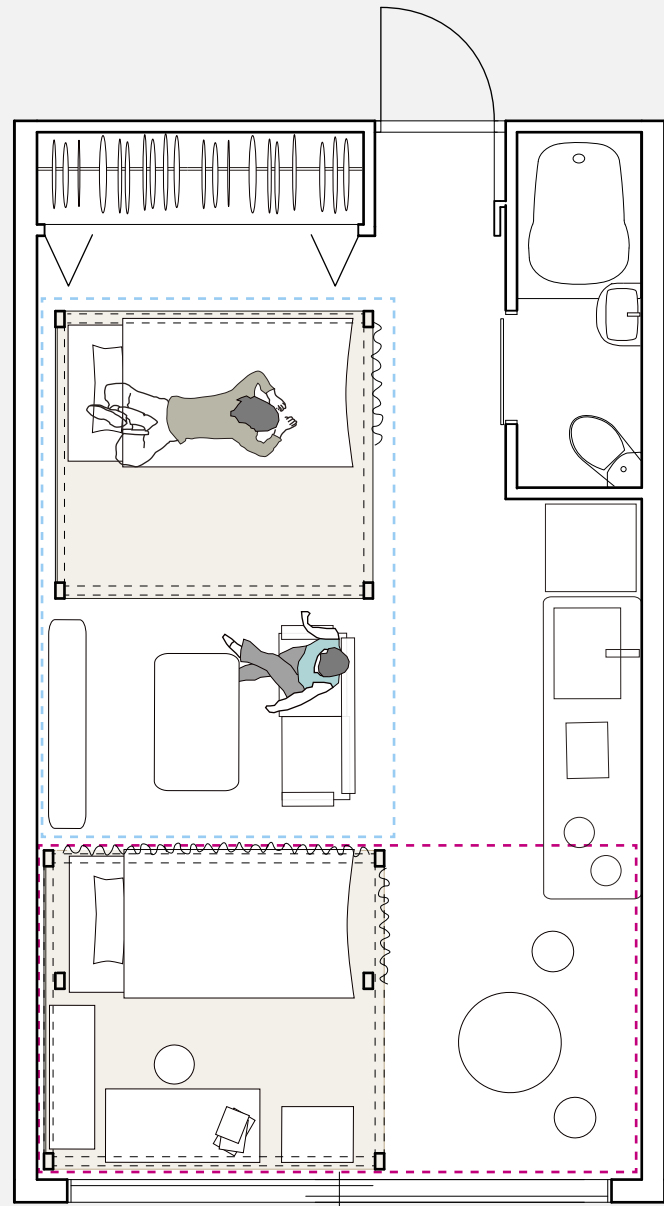
- 膜天井：柔らかに光を拡散
- 柱：60×105の角材
- カーテン
- 車輪：ストッパー付き
- シャージ：90角材

籠による大きな空間変化とカーテンによる細やかな距離感の変化の二層構成。

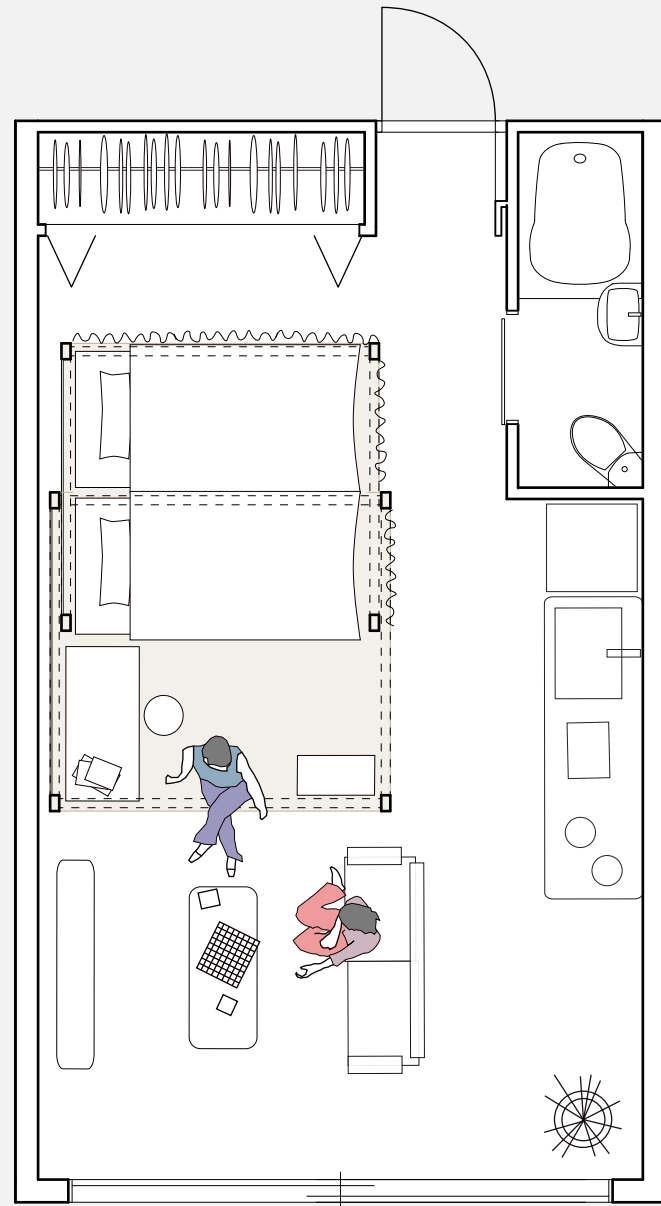
「揺り籠」の重なり方

床板同士のクリアランスは2cm確保。図のように動くことで、揺り籠同士が一体化し、それに合わせてベッドも一体化する。

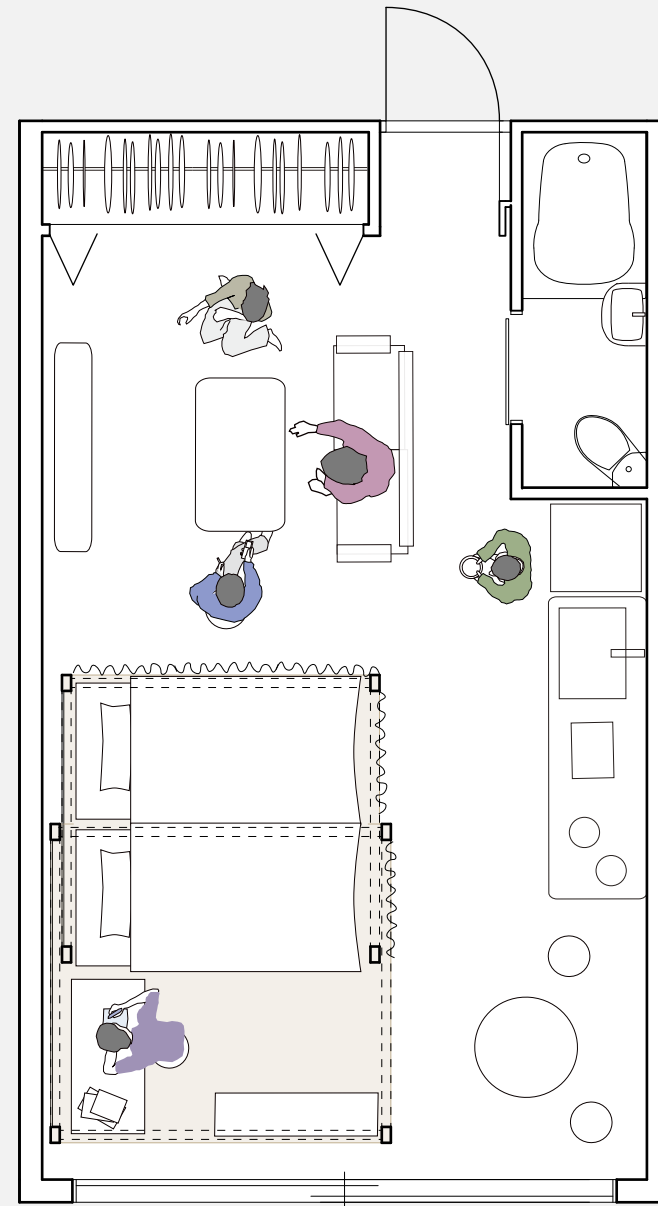
MODE：セパレート I 1:50



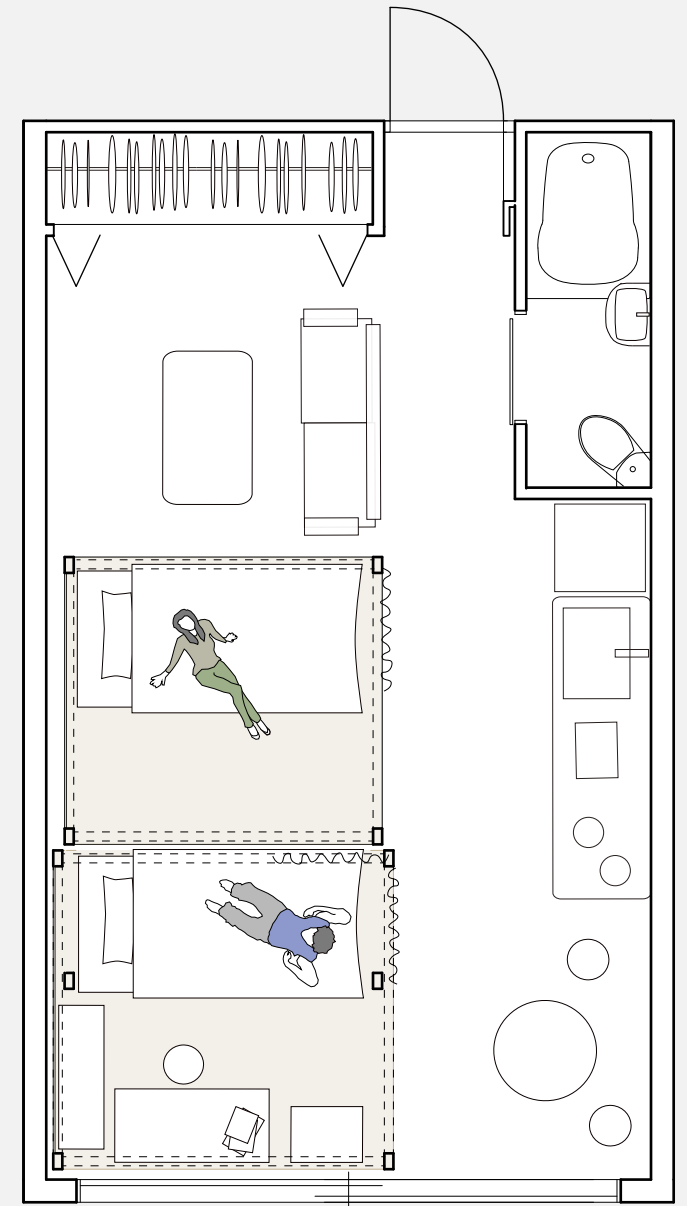
MODE：だんらん 1:50



MODE：おもてなし I 1:50



MODE：セパレート II 1:50



最も距離感を取れるよう揺り籠を動かしたモード。什器による個室が二つと共用部が二つある空間構成。赤と青の点線で分かれているように二室のように見立てて生活することも可能である。少し距離を取りたくなった時や生活スタイルの違う二人におすすめなモードである。

二人の共用スペースを最大化するように揺り籠を動かしたモード。窓際に大きなリビングが生まれている。籠の床と住居の床との間に生まれた段差は、リビングと什器内の間に距離感を生むと同時に、腰かけ椅子としての役割にもなる。仲が良くなるべく一緒に居たい二人におすすめなモードである。

来客に対応できるように揺り籠を動かしたモード。ベッドは一体化し、比較的広い共用部が生まれている。カーテンで仕切ること、来客が来ても窓際のスペースで快適な一人の空間を作れる。友達の多い二人や家族などがよく訪れる二人におすすめなモードである。

セパレート I よりも揺り籠同士が緩やかに分節されているモード。ベッドに挟まれた床が、籠内にいるときの二人の共用部にもなる。簡単にモード「おもてなし」に変化できるため、たまには一緒に寝たいけど、基本的には寝る場所を分けたい二人や個室が欲しい二人におすすめなモードである。

